

「しずく」の現状

2020/12/24

1 はじめに

2020/12/24の現状をまとめた。

2 経過

①Pb6mm,5mm,5mmで完成した。2.31g

ところが、数尾釣れると、フックアイ、ラインアイがくずれぬ。

②ヨーヅリのガン玉5B1個(1.80g)+ステンレス球5mm1個(0.52g)=2.32g

原因はワイヤーフレームが直線的であると考え、ガン玉をワイヤーフレームにつけることにした。

ラインアイは崩れはなかったが、フックアイが崩れた。

なぜか、すべて沈んでしまう。

③6mm, 4B =2.15g

重さ調整をした。しかし、前に6mmを持ってくるとリップがつけにくい。

④2B, 4B =1.91g すべて浮く。

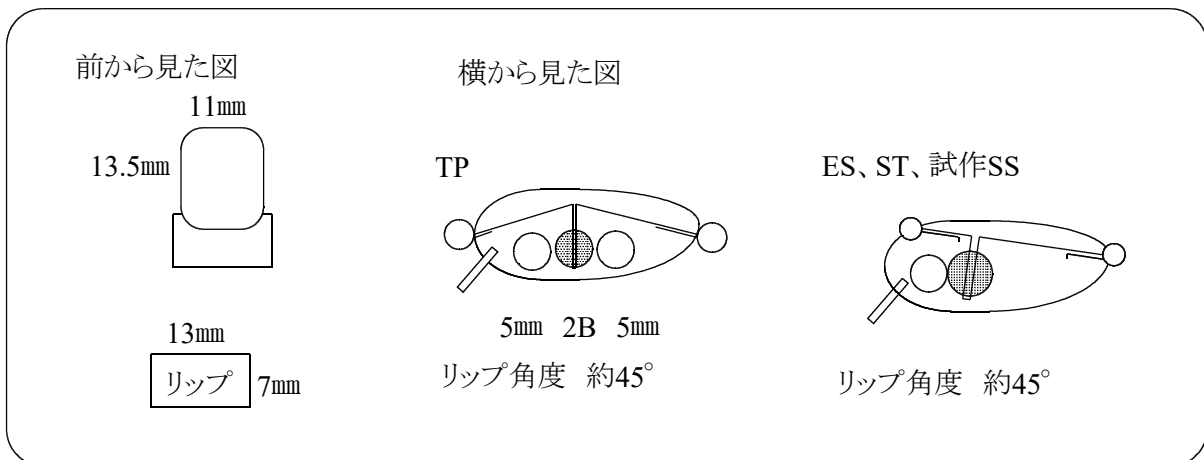
粘土を削りながら、重さを調整する。

エポキシ樹脂で全体を強化する。

※全体を強化するか、アイのところだけ強化するか。全体を強化すると、凹凸ができる。

※乾燥後の浮沈テスト、リップをつけエポキシ樹脂後の浮沈テストから、リップとエポキシ樹脂をつけ、重さはほとんど変わらない。

3 全体図



4 リップの角度

※リップ角度はすべて45°とする。

5 おもりの重さ

ヨーヅリ	ガン玉	直径		鉛球	6mm	1.29g
2B	0.66g	5mm		鉄球	6mm	0.90g
3B	0.94g	5.5mm		ステンレス球	5mm	0.52g
4B	1.25g	6mm				
5B	1.80g	7mm				

6 ワイヤースタンプとおもりの位置

※ガン玉はヨーヅリ製

※ワイヤースタンプにガン玉をラインアイの方から挟んでかきめる。

※前のおもりは、ワイヤースタンプにつけたガン玉に接触するようにする。

※後のおもりも同様。

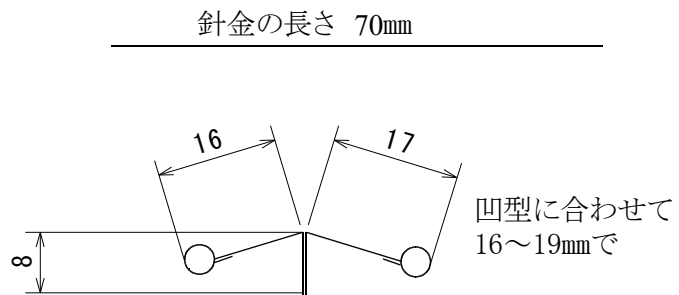
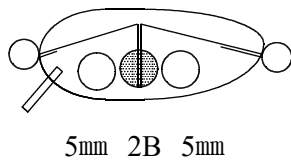
※ブランク成形時、おもりを埋めすぎない。



(1) トップ用 (TP)

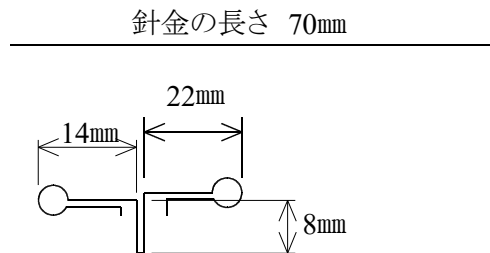
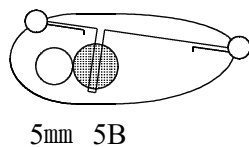
ステンレス球5mm、ガン玉2B、ステンレス球5mm $0.52g + 0.66g + 0.52g = 1.70g$

TP



(2) スタンダード (シンキング) (STまたはES)

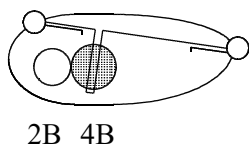
ステンレス球5mm1個 (0.52g) + ガン玉5B1個 (1.80g) = 2.32g



(3) 試作スローシンキング (SS)

ガン玉2B (0.66g) + ガン玉4B (1.25g) = 1.91g

粘土を削って重さ調整をする。



※ワイヤースタンプは(2)と同じ

7 色

色は絞りたい

TP: トップ用 「ペレットねずみ」のみ

ES: 餌撒き用 「ペレット薄茶」のみ

スタンダードのもの (ST) を使用

BB: ボトム用 「桃」のみ

ST 試作SS: 「ペレット薄茶」、「黄緑・桃」「蛍光グリーン・蛍光ピンク」

クリアウォーター時: 「オレンジ」を追加

- ※ 桃 赤+白 赤を少なめに
 黄緑 黄+緑 緑を少なめに
 ねずみ 黒+白
 薄茶 茶+白+黒少し
 オレンジ 赤+黄
 ペレットねずみ 下地色:ねずみ 散らす色 : 白、黒
 ペレット薄茶 下地色:茶+黄+白+黒少し (黄土色+ねずみ色、少し黄色っぽくする)
 散らす色 : 茶、黒、白

実績

	第3ポンド	第2ポンド
蛍光ピンク・グリーン	○	
オレンジ	○	
黄緑・桃	△○	
薄茶	△○	
ペレットねずみ		1
ペレット薄茶		6 餌撒き

桃:ボトム用に

ペレットねずみ:トップ用に

8 製作手順

<試作SS>

- ①ブランクの成形 → 乾燥 30分
- ②ブランクの整形 : バリ取り → 乾燥 二晩
- ③浮沈テストと調整 : フック等を付けて → 乾燥 二晩
 水中姿勢の悪いものは廃棄。
 すべてのブランクは浮くので、粘土を削ってゆっくり沈むように調整する。
- ④リップの接着とフックアイまわりの強化 2液エポキシ樹脂で → 乾燥 一晩
 ブランク全体を強化するなら、エポキシ液が平らになるようにする。
- ⑤透明アクリルの吹きつけ 1つ1つ吹き付ける。1回。 → 乾燥 一晩
 ブランク全体にエポキシ樹脂が塗られているなら、透明アクリルはなし。
- ⑥浮沈テスト
 水中姿勢、沈下速度の確認
- ⑦着色 → 乾燥 一晩
- ⑧目の接着 「平面の目」を使用
- ⑨透明アクリルの吹きつけ 1つ1つ吹き付ける。1回。 → 乾燥 一晩

<TP>

浮沈テストは1回だけ ③のみ

9 おわりに

※スタンダード(シンキング)を残すかどうか。

餌撒き時に試作SSでも釣れるなら、STは不要

少し速く巻いた方が釣れるときがあるなら、STは残す。

沈みが早いので速く巻ける。

巻くと浮いてくることが前提である。リップの角度による。

もともと作ろうとしたのは、SSである。